



和教組ゆるキャラ みぱん

学校は再開、けれども問題山積、 大変な時だからこそ、 みんなの力を合わせよう 組合に加入し

第84回和教組定期大会

今年度の大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Zoom開催となりました。参加者も大きくしほり、多くの組合員の方々は討論を聞くことができません。このため、今号を大会特集とし、大会の様子をお知らせいたします。



◆ 教研企画 ◆ やり続けることの大切さ

伊都支部 津田 数久 代議員



三つの分野で基礎講座を行いました。

二〇一九年度 支部教文
 活動について報告します。
 小学校・中学校・教科の
 商のたて方等を那賀支部の
 覺道先生に教えていただき

一回目は中学校の美術の先生を招き、遠近法を使った水彩画の指導法や色の濃淡の使い方などを教わりました。二回目は算数「二桁

大会挨拶

子どもたちに合わせた柔軟な教育を

執行委員長 武田 正利



より、学校の課題がより明確になりました。四〇人学級編成では「密」にならざるを得ません。少人数学級・教職員定数改善は喫緊の課題です。

「遅れた分」を取り戻すため、夏休み短縮をはじめ、行事の見直し、教科中心の時間割など、やむを得ない面もあります。子どもたちにとって学校が窮屈な場所になってしまつてはいないかと懸念があります。今こそ、学習指導要領に子ども

もを合わせるのではなく、子どもたちの実態に応じた柔軟な教育、学習内容の精選が求められています。

感染防止を図りながらの教育活動推進で、忙しい日々ではありますが、こんな時だからこそ、時間や場所など工夫し、不安や悩み、怒りや要求を出し合い、仲間を増やし、みんなが「やりがい」と「ゆとり」をもって働ける学校をつくっていきましょう！

学校が再開し、教室に、子どもたちの元気な声に戻ってきました。教職員のみなさんは、感染防止に取り組みながら教育活動をすすめていくため、様々な工夫や努力をされていることと思います。

今回のコロナ感染症に

今年度は少人数でスタート講座を行いました。子どもの方や学級づくり、学級事務について等のテーマで新採の七名を加えて、一六名の参加でした。年々多忙が進み、思ったように人数が集まりませんが、や

り続けていくことが大切と考えています。今年度の県教研は伊都支部で開催です。できるだけたくさん参加をいたしますよう、ご協力をお願いします。

ました。三回目はきのかわ支援学校の西本先生が講師で、空気と水を使った実験をもとに、仮説実験授業の講座を開設しました。支部教研は日頃の悩みや実践等を出し合える場にしました。



この機会に教育課程の自主編成と 少人数学級編成の実現を

那賀支部 部家 司好 代議員

コロナ感染者が出る中、私の職場では二週間の学校閉鎖になりました。ネットや電話での誹謗中傷、家庭訪問時に保護者からも厳しい声がありました。職員間では、今後感染症を出すまいと、ピリピリしています。生徒からは、不満や批判がなかったことにほっとしています。

分散登校が始まり、職員による給食の配膳、四回の消毒や検温チェックなど、座っていられるのは一五分しかない状態です。六月一日から一斉登校が始まりますが、生徒も職員も不安でいっぱいです。授業時間の確保が優先される中で、夏休みの短縮、行事を削減する、毎日六限

授業になる等、生徒もうんざりしています。

この機会に、教育の専門家として、子どもや保護者の願いを聞きながら、学校で考えた教育課程を作り上げていく、主体は学校にあるということを県内各地で考えていく必要があると思います。

また、教職員増は絶対必要です。少人数学級編成を進めていくことが、喫緊の課題だと思えます。



経験を活かして 次への準備を！

海草支部 米田 充 代議員

必要です。少人数学級編成を進めていくことが、喫緊の課題だと思えます。

また、教職員増は絶対必要です。少人数学級編成を進めていくことが、喫緊の課題だと思えます。

組合活動の大切さを 訴えていく

和歌山市支部 楠見 耕介 代議員

昨年度、管理職のトップダウンで決められたことに對して、分会でたたいい、成果を得た取り組みを報告します。

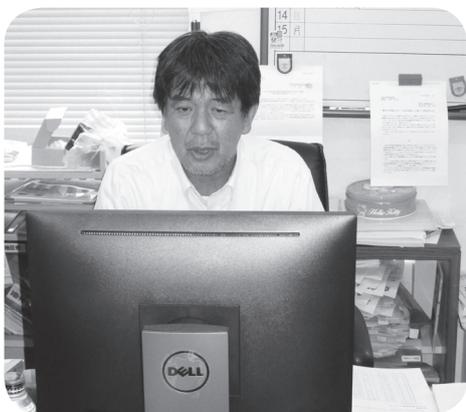
夏休みに入つてすべの『組合学校』を「大丈夫？今の職場」と題して、職場

の様子や悩みを語り合いました。その時ある分会から、「教育委員会からの研修提案を校長が教職員に相談なしに受けてしまい現場は困っている」と報告してくれました。実際は学びの丘も『市や学校の希望に

のほかに、組合活動の大切さをこれからも訴えていきたいと思えます。

加えたことについても問題にしました。子ども達や教職員の負担も大きく、市内の他の学校では時数を増やさずに対応している例を具体的に紹介し、昨年末の職員会議で見直されました。教育活動の独自編成権は学校にあること、組合活動の大切さをこれからも訴えていきたいと思えます。

加えたことについても問題にしました。子ども達や教職員の負担も大きく、市内の他の学校では時数を増やさずに対応している例を具体的に紹介し、昨年末の職員会議で見直されました。教育活動の独自編成権は学校にあること、組合活動の大切さをこれからも訴えていきたいと思えます。



コロナ対策として、美里中では「オンライン授業」に取り組みました。紀美野町では、生徒一人一台のタブレット端末を用意し、多くの家庭にWi-Fi環境があり、環境のない生徒は教室で対応しました。五月十一日の週から、週三日のオンライン授業がスタートしました。「Zoom」「YouTube」「ロイロノート」など様々な方法で工夫しながらの取り組みで、IC

「機器の苦手な私には、かなり高いハードルでしたが、職場の仲間と試行錯誤しながら授業を創っていくのは意外に楽しくできました。この経験を活かしてからの授業改善、コロナの第二波、第三波に備えていきたいと思っています。今回の「新型コロナウイルス」への対応は、学校ではまさに「未知との遭遇」でしたが、それと同時に、研修や会議、出張等々を例年通り継承するのではなく、不要な物は削除するなど、今一度、学校について深く考えることのできる貴重な時間を私たちに教職員に与えてくれたと思っています。



養護教員アンケート

有田支部 堀江 宏三代議員



昨年度、「県教育のつどい」を有田で行ったあたり、青年教職員の実践報告を中心に久しぶりに支部教員を行いました。民研の市川先生にも来ていただいて、充実した内容でした。こうした取り組みもあって、「つどい」では七分科会に二人の方がレポート報告をしていただくことができました。

話す管理職もいたそうです。学校での感染対策の責任者は管理職ですが、その自覚のない職場では、養護教員が孤立する場合もあり、みんなで支えていくことが必要です。

広川町では中学校で給食費の無償化が始まりました。隣の湯浅町でも給食費無償化を求める運動を始め



ました。町内の保護者が呼びかけ人になり、一三〇〇人以上の署名が集まっています。六月八日に提出しますが、実施を強く求めています。

和教組運動方針・とくくみについて

日高支部 吉田 収 代議員

運動方針を深める立場で、いくつか質問も含めて発言します。

「新型コロナウイルスを理由とした長期休業の短縮等に反対します」とありますが、現在もこの方針通りでしょうか。子ども達の豊

かな学びを保障するという観点に立ち、教育計画の自主編成など、学校を主体に負担にならない授業保障について、全教が提言を出しています。和教組もこうしたものを出すべきではないでしょうか。

同和教組の復活に反対するのは当然ですが、根本となる法や条例の廃止を求めるとりくみは行わないのでしょうか。

「新たな職」について、議案に記載がありませんが、拡大させないためのとりくみが必要だと思えます。また、「二年単位の変形労働時間制」を導入させないために、どのように力を集中させるかが課題です。

国政選挙について、昨年より踏み込んだ方針になっていると思いますが、和教組が推薦等を行う場合の条件について、もっと丁寧な記述が必要なのではないでしょうか。

アンケートを元に要望書を提出。集まることと組合の必要性を実感

西牟婁支部 松葉 秀伸 代議員



かわからない、一人に対応策を考えなくてはいけない」という声が多く寄せられました。アンケートで集まったこのような声を元に市町村教育委員会へ要望書を提出しました。

西牟婁支部では、養護教員にコロナ問題でのアンケートを取り、組合員はそれほど多くないのですが三日間で約八割の職場から声が寄せられました。養護教員からは「消毒液など物が無い」とことごとく「今後どのように対応していったらいい

LINEをつかって常任会議を行いました。LINEを使うことにより、参加者が増えたことと時間が短縮できたことがメリットですが、やっぱり集まって議論することも必要だということを再認識しました。





コロナ対応で、休校措置・解除、分散登校、夏休み短縮など本来は学校・教職員で十分な議論が必要なことを県知事が一方的に決め、教職員がそれらの情報をテレビで知るといふ強引な「トップダウン」により、教職員には大きな怒りや不安が広がっています。休校中は少しはゆっくりに間らしい働き方ができましたが、再開後の忙しさや将来への不安などにより、今後、早期の退職者が増えてしまうのではないかと危惧

みんなで支えあつて!

東牟婁支部
丸山さおり 代議員

しています。

支部では、コロナ関係で、養護教員の方にアンケートを実施し、結果を知らせることも寄せられた声を集約し、教育委員会に改善を求めています。この取り組みに対して、未組合員の先生から書記局にお礼の電話もありました。今後

も、養護・栄養・事務職員など職場に一人の方が、責任を押し付けられ、不安を抱えながら孤軍奮闘させられることがないよう、職場全体でのフォローを呼びかけることも支部としても取り組んでいきます。



大会まとめ

ともに支えあう組合の役割はますます重要

書記長 川口 貴生

今年、時間短縮しWeb会議という異例の大会でした。

新型コロナウイルス関係の質問や発言が多くありました。長期休業短縮反対という立場

不安が広がっているという発言もあり、少人数学級など要求運動とあわせ、ともに支え合う組合の役割はますます重要です。

同和教育については、質問にあったように法や条例を廃止することは重要ですが、現時点では、引き続き研修や教育内容の押し付けを許さない取り組みを中心に進めます。

選挙については、安倍改憲を阻止するために、「市民と野党の共闘」に和教組も積極的に参加すべきです。これまでの「推薦等は無所属の候補者に限る」という方針では対応できない事態もありえます。要求実現のための最善の取り組みをともに考えていきます。

学校が再開されても、問題は山積しています。大変なときだからこそ、強くなきな和教組をつくり、みんなの力を合わせましょう。

日教弘教育賞

子どもたちの未来のため、教職員の貴重な教育研究実践論文を表彰するとともに、広く全国の学校に紹介し、教育の向上発展に寄与する目的で日教弘教育賞実践論文の募集を実施しています。

- ◆ 9月末日 日本教育公務員弘済会和歌山支部 必着
- ◆ 支部推薦・審査および表彰

日教弘和歌山支部選考委員会において選定した2~3編の論文を、日教弘本部へ推薦し、本部で行われる審査委員会において審査します。最優秀賞(2編)、優秀賞(6編)、優良賞(8編)、奨励賞が決定されます。

なお、本部推薦以外の論文についても和歌山支部より、優秀賞(数編)を選考します。

※募集要項、論文の書き方は「日本教育公務員弘済会」のホームページをご覧ください。

<http://www.nikkyoko.or.jp/>



公益財団法人 日本教育公務員弘済会和歌山支部 TEL073-421-7881